

指導資料

特殊教育 第126号

- 小, 中, 盲・聾・養護学校対象 -

鹿児島県総合教育センター

平成14年9月発行

授業に生かす個別の指導計画

盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領では、より一層、個に応じた指導の充実が求められている。特に、自立活動及び重複障害者の指導に当たっては、個別の指導計画を作成することが明記された。当センターでは指導資料（特殊教育第119号）で既に紹介し、各盲・聾・養護学校や特殊学級においても個別の指導計画の作成・活用が進められている。

実際に作成された個別の指導計画を授業に生かし、より一層、個々の子どもに対する指導を充実させるためには、個別の指導計画を毎時間の授業等にどのように具体化していくかを明確にする必要がある。

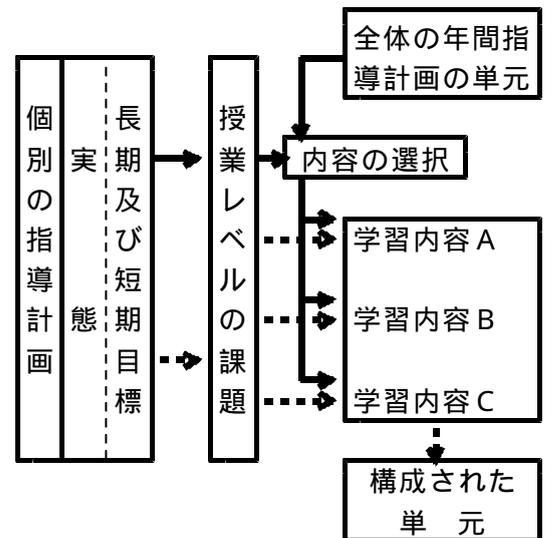
そこで、本稿では一人一人に応じた学習活動が一層充実するように、個別の指導計画を授業に生かす取組について述べる。

1 学習内容と活動の設定

個別の指導計画の作成については一定の書式や内容の決まりはないが、少なくとも子どもの実態とそれに基づく長期目標及び短期目標が示されているのが一般的である。

個別の指導計画に示された子どもの実態やそれに基づく目標等から毎時間の授業等の学習内容を設定する際の流れは、図1の

ように示される。大きく分けて、一人一人の実態や目標等を基に必要な学習内容を取り上げて新たな単元や題材を構成する方法、学習集団、学級や学年の全体指導計画に基づく単元や題材に設定されている学習内容の中から一人一人の実態や目標等に合わせて選択する方法の二つがある。実際には、両方を組み合わせて学習内容を設定する場合もある。



--- 目標から単元構成を行う流れ()
— 単元の学習内容から選択する流れ()
図1 学習内容の設定の流れ

図1に示した授業レベルの課題とは、個別の指導計画に示した子どもの目標を達成するために実際の授業で取り上げる課題である。一般的には1か月間から1学期間を想定して設定された短期目標を段階的に授業レベルの

課題に具体化し，それを基に授業の学習内容を選択・設定する。

自立活動の指導では，学習指導要領に示された「自立活動の内容」の中から個々の指導目標を達成させるために必要な項目を選定し，それらを相互に関連付けて具体的な学習内容を設定する手順が一般的である。その際にも，項目を授業レベルの課題に具体化してから学習内容を設定する。

図2は前述したの流れによる短期目標から授業レベルの課題への具体化と学習内容と活動の設定例である。

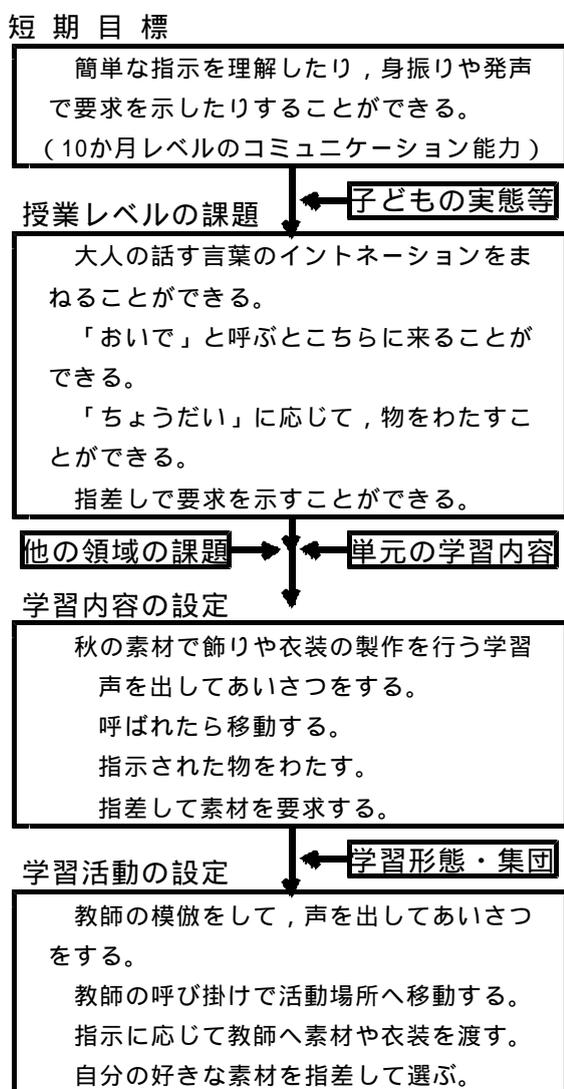


図2 授業レベルの課題への具体化例と学習内容と活動の設定例

ここでは短期目標に「10か月レベルのコミュニケーション能力の育成」を設定した子どもの授業レベルの課題への具体化例を示した。具体化された授業レベルの課題を基に，コミュニケーション以外の領域の授業レベルの課題との関連を図りながら単元の学習内容からの選択を行って最終的な学習内容を設定する。次に学習内容に応じて子どもの取り組む活動を用意し，その活動を通して学習内容を子どもが習得していくようにする。

学習内容に応じた活動は，子どもの「よさ」が生き，主体的に取り組めるように次のような点に留意して選択する。

- ア 見る，聞くだけの授業ではなく，子どもが参加できるものであること。
- イ 物事を断片的ではなく一つのまとまりとして経験できるものであること。
- ウ 感覚・運動面で多様な体験ができるものであること。
- エ 活動の見通しがもてるものであること。等

このように段階を踏むことで，個別の指導計画が授業に生かされていく。

2 学習形態・学習集団と指導体制

(1) 学習形態・学習集団の構成

学習内容・活動によって効果的な学習形態・集団の構成を工夫することで指導を最適化した授業が可能となる。複数の子どもが授業に参加する場合は，図3に示すように一人一人の授業レベルの課題を「個別的な課題」，「共有できる課題」，「集団活動を生かす課題」等に分け，共通する課題をもつ子どもはグループ分け

し、独自の目標をもつ子どもには個別指導が行える学習内容を設定する。

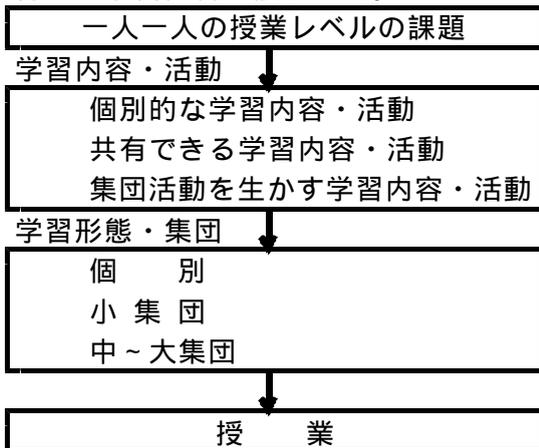


図3 学習内容と学習形態・集団

個別の指導計画は課題や目標を個別化するものではあるが、必ずしも個別指導を意味するものではない。個別化された課題の中には、集団活動の中でこそ達成できるものもあることに留意する必要がある。例えば、コミュニケーション能力を育成する場合には、集団による指導が効果的な場合が多い。

学習形態・集団の構成は学習内容・活動によって異なる。授業の展開の過程を想定して、子ども一人一人が主体的に取り組めるように、授業の前半を全体での指導に当て、後半を小集団や個別指導にするなど、1時間の授業の中で学習形態を変化させることも必要となる。

(2) 指導体制の工夫

集団による指導の場合、二人以上の教師が協力して指導することが多い。その際は、チームティーチングの指導体制を取るなどの工夫が必要となる。チームティーチングによる指導では、子どもの実態や学習内容等に応じて指導形態(図4)を組み立て授業の過程で柔軟に使い分ける。また、複数の教師が各自の役割を認識し協力して

授業を進行するためには、授業の指導案に役割を具体的に明確化する取組も必要である。図5は、上記のことを踏まえた肢体不自由養護学校中学部重複学級でのチームティーチングによる生活単元学習指導案例である。

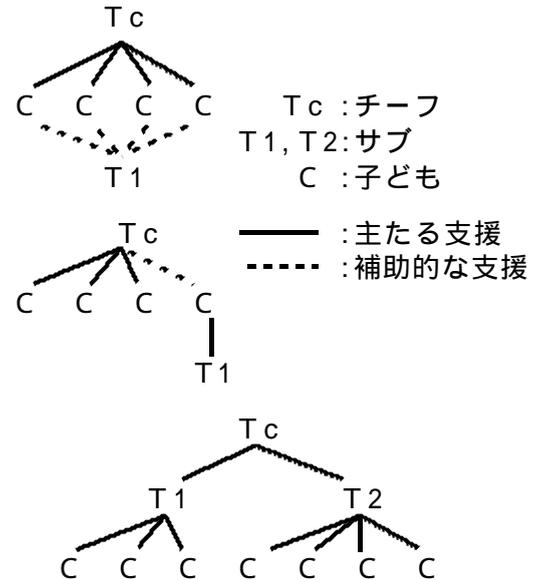


図4 チームティーチングの形態例

3 授業の評価と指導計画の改善

実施した授業については、子ども一人一人に対して次の評価を行う。

- (1) 目標達成度の評価
- (2) 集団の構成や指導体制の評価
- (3) 指導の手だての評価

目標が達成できた場合は次の段階での目標の設定を行う。目標が達成できなかった場合は目標や学習内容、手だての見直しを行い、個別の指導計画の改善を行う必要がある。

このように個別の指導計画を授業に生かす取組が行われることで一人一人に応じた学習活動の充実を図ることができる。

1 単元名 「秋を感じよう」

4 個人目標 C1: 声を出してあいさつができる。
呼ばれたら移動することができる。
指示された物をわたすことができる。
指差して素材を要求することができる。

C2: 安定した座位を保持することができる。
みんなの前で発表することができる。
自分の名前を読むことができる。
友だちとのかかわりをもつことができる。

サブの支援(具体的な支援)

目標の具体化

5 授業の実際

過程	学習活動	教師の支援					備考 (教材・教具)
		T1	T2	T3	C4	C5	
導入 7分	1 円形に集合する。	・ いすに座りリラックスできるようにする。	・ 姿勢を正しくしていすに座れるようにする。	・ 姿勢良く座位保持いすに座れるようにする。	・ 座位保持いすに座り落ち着けるようにする。	・ 姿勢を正しくしていすに座れるようにする。	座位保持いす ブルーシート 落ち葉 木の实 草花 かご 衣装の下地 リボン・ひも 画面テープ
	2 始まりのあいさつをする。 3 本時の学習の確認をする。 ・ 前時までの学習を振り返り、素材に触れながら確認をする。 ・ 本字の学習についての話を聞く。	<p>Tc・ 日直の号令で始まりのあいさつができるようにする。</p> <p>・ 教室の設営を見せながら前時までの学習を発表ができるようにする。</p> <p>・ シートの下から秋の素材を取り出すことで、本時の学習に興味をもつようにする。</p> <p>Tc・ 秋の素材に触れさせながら前時を振り返られるようにする。</p> <p>・ 本時の学習内容は秋の素材を使って衣装を作る「秋で着飾ろう」であることを伝える。</p> <p>・ グループを発表する。</p>					
展開 23分	4 衣装の下地をもらい、三つのグループに分かれて、秋の素材を張り付けて衣装を作る。	<p>Tc・ 衣装の下地を配り、グループごとに活動を始められるようにする。</p>					多様な教材の準備 落ち葉落下装置 ハンモック
	<p>Aグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動場所へ移動する。 好きな素材を選ぶ。 自分で素材を張り付ける。 素材の上を転がり張り付ける。 友達同士で張り合う。 自分の考えで作成を進める。 	<p>Bグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 呼ばれた活動場所へ移動する。 自分から素材に触れて感触を味わう。 かごの中のどんぐりを手でかき回して感触や音を楽しむ。 好きな素材を指差して選ぶ。 選んだ素材を教師へわたし、一緒に張り付ける。 素材の上を転が 	<p>Cグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に移動する。 落ち葉やススキで手足・顔を触ってもらい感触を味わう。 かごの中のどんぐりを手で触り感触を味わう。 マット上で落ち葉の感触を味わう。 ハンモックで揺らしてもら 素材を衣装に 	<p>教師の支援</p> <p>Tc・ 声掛けをしながら活動場所への移動を促す。</p> <p>・ 素材を口に入れないように気を付ける。</p> <p>・ 好きな素材を自分で選べるように声掛けや励ましを行う。</p> <p>・ 友だちとのかかわりをもちながら活動ができる</p>	<p>教師の支援</p> <p>・ 名前を書かれた衣装の下地を選ばせる。</p> <p>・ 素材を口に入れないように気を付ける。</p> <p>・ 自分で活動を選ぶように働き掛ける。</p> <p>・ 友だちとのかかわりをもちながら活動ができる</p>	<p>教師の支援</p> <p>・ いろいろな素材の感触を楽しみながら張り付けられるようにする。</p> <p>・ 好きな素材を自分で選べるように声掛けをする。</p> <p>・ 落ちてきた落ち葉の感触が味わえるようにする。</p> <p>・ 表情に注意しながらハンモ</p>	

図5 個別の指導計画に基づいた授業の展開例

〔参考文献〕

全国的障害養護学校長会編著『個別の指導計画と指導の実際』2000東洋館出版社

北海道立特殊教育センター編著『個別の指導計画の作成と活用』1998

(特殊教育研修室)